
フォチャーストVS神

加来間沖

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

フォチャーストVS神

【Nコード】

N8081V

【作者名】

加来間沖

【あらすじ】

神はいきなり襲撃してきた！！これに宣戦布告を決定したフォチャースト帝国のキングマカドニアが暗殺される。

人間界にも神が襲来！！反感をかった神。

一方同盟国のフェバンダー王国が神に寝返った。

戦いは続いていった。想像できぬ方向に。

果たしてこの戦争の行き先は？

今ここに1大決戦が行われる！！

序（前書き）

新作品です。

序

敵をただ殺す兵器が町を行進していく。神を殺すためひたすらマカドニア帝国を行進していくのだ。

そう、兵器はただ相手を殺すために生み出されたのだ。兵器名はフォチャマカドニアVEI?型というらしい。格闘戦を可能とし、なおかつ20センチ砲が装備されているアンドロイドだ。

|| 神の襲撃 ||

それはイキナリやってきた。町の屋根が吹き飛んだ。火薬のにおいが当たりに立ち込める。もうもうと煙が立ち上る。いきなり国籍不明の国から襲撃を受けた。フォチャースト軍が対空戦を開始した。しかし空には敵がない。そう地上からだ。「なんだ敵はもう上陸して来てんじゃねーか」フォチャースト軍の兵士が叫んだ。その兵士は突如頭を打ち抜かれた。

「敵は現在首都に向かい進行してきています」ここは戦略指揮皇党だ。ここで敵の動きを察知し作戦を立案指揮を取るのだ。「敵の規模は？」マカドニア軍最高指揮者 キング・マカドニアが言った。「1個師団であります」「何故1個師団程度も食い止められんだ」キングマカドニア総統が怒鳴った。「それがフォチャースト軍の兵士では太刀打ちできません」ここで整理しておこう。フォチャースト軍は国民防衛のため編成された組織で、マカドニア軍はエリートがかき集められた総統の命により動く兵士達で、マカドニア軍1人でフォチャースト軍10人に匹敵するといわれている。

「役立たずのフォチャースト軍め、第3マカドニア軍を迎撃に向かわせろ!!」「了解」要塞のような兵舎からマカドニア軍がわざわざしく駆け出した。

「偵察部隊より入電。100キロ前方でフォチャースト第3師団

が壊滅。敵は依然として強大な火力で向かってきます」「よしそこを攻撃するぞ」マカドニア戦車W2が100輜向かっていった。

その侵入者は自らを神と名乗った。

彼らは数時間後マカドニア第3軍下第3戦車師団・第2歩兵師団及びフォチャースト軍残党により包囲殲滅させられた。

「捕虜を連れてまいりました」「よし通せ」とマカドニア第3軍隊長グエツアマカドニアが言った。

捕虜が入るなりグエツアは「貴様の国名はどこだ、何の目的でここに来た」その捕虜は言った「俺達は神さ。貴様らゴミ共を殲滅させるためにここにやってきたんだよ」「ほおゴミとはずいぶんないようだ。貴様らはそのゴミにやられたわけだが」「ゴミを駆逐して神の栄光を図るこれぞ神の未来図だ。そうお前みたいなウジ虫がない世界を望む」堪忍袋の緒が切れたグエツアは薙刀を取りフンと一刀両断にしてしまった。

「神か・・・こいつは面倒だ」グエツアは言った。全てはここから始まった。

一方的な奇襲を受けたフォチャースト帝国は神に対し宣戦を布告した。しかしそれには幾分か時間を戻す必要性がある。

まずは総統暗殺事件だ。

序（後書き）

ご愛読ありがとうございました。

ダン・マカドニア総統

【会議室】

「宣戦布告でいいな」と総統が言った。「いいも何も

キング・マカドニア

これは明らかに戦争行為であります。卑怯なだまし討ちです」とグエツア・マカドニアがゆっくり甲高い声で話した。「そのとおりだ」と総統。「しかし：問題が山済みだ。まずフォチャースト軍は何をしていた？」

総統はフォチャースト軍代表サラモニーに対し鋭い視線を浴びせた。「我が軍は大いに反省をしまして、今後：」「そんなことを聞いたのではない！何をしたのかと聞いているのだ！」総統は怒鳴った。が、サラモニーは平然とし続けた。「左様でございましたなあ。前線の指揮官の指揮不足であります」

「ではどういふ対応をとるのだ」総統が耳を傾けんばかりの勢いで聞いた。「優秀な指揮官を選抜し、今回の指揮官は降格とします」その後も話は続いた。

【国際連絡室】「我、同時刻神ヨリ不当な攻撃ヲ受ケタナリ。全力ヲ持シテ敵ノ部隊ヲ殲滅シタリ。我貴国ノ援助アレバ共ニ神ニ対シテ矛ヲ向ケル」とボンボン国との連絡が付いた。同盟国のボンボン王国は機械化は進んでいないが、戦闘意欲は旺盛であった。またフェバンダー王国との連絡をとった。この国も同盟国なので最低でも中立、よければ共に戦ってくれるものだったが・・・。

「大変だ！すぐさ総統に知らせろ」いかなる連絡だったのか？

【再び会議室】

「なんだ騒々しいな」会議室の扉を蹴り破る勢いで入ってきた兵士に総統はそう声をかけた。「どうかしたのか連絡係のものよ、名を述べ用件を話せ」グエツアがその男が連絡係の兵士と分かるのには時間がかからなかった。「はい。私はニーレと申

します。同盟国の件ではありますがフェバンダー王国が神に寝返りました」会議室は1時期異様な空気に包まれた。「今日はエイプリールフールだったのか」とサラモニーが空気を和らげようといった。もっともこんな言葉で解決する分けないが。

サラモニーが言ったことに総統はハッとなって「それは本当か？それともエイプリル：今日は14月だから違うな」フォチャースト帝国は14月まである。地球と比べ1年が長い。

フェバンダーの裏切り：戦闘継続能力が高い国それがフェバンダー王国だ。それが裏切った。

会議は宣戦布告で決まったが、サラモニーはこれに納得できなくなった。(こうなれば俺が停戦してみせる。総統を殺せば意見が変わるかもしれない。フェバンダー無くしてどう勝つというのだ?)

深夜 「いいかお前ら、速やかに総統を殺してくるのだ」「了解」フォチャースト軍の将兵が12人兵舎からサラモニーの命令により出撃してきた。

【マカドニア総統の家】 「おい、何か物音しないか」「そうだな」と警備のものが言った。：ン

銃声のようなものがした。警備の奴は血をだらだら流しながら死んでいった。「フ、銃声が聞こえないところも楽なのだな。他の警備が来ないじゃないか。何がマカドニア軍1人は10人に匹敵するだ、20人もこっちはいないぞ」と侵入兵士は小声で呟き次の地点に移動した。

【大統領寝室】 「さてさっさと殺すぞ」と反乱軍(フォチャースト軍)が言った。「そこまでだ」

マカドニア軍がそこにいた。数は10・20・30人入るだろうか。何故気がつかなかった？

しかし反乱軍兵長が銃を遠くに向け撃った。ガシャューンシューなどの機械が壊れた音がした。マカドニア軍は消えた。「幻影装置

なんて生ぬるいのを使うとは、よほど警備への信頼が高いんだな」
（しかし今ので部屋の内部にバレただろう）「突撃」反乱軍は總統の部屋の扉の鍵を銃で破壊するなり突入した。入るなり1人倒れた。
「貴様ら何をしてるのか分かつるのか」總統が物陰に隠れいつてる。

「お前を殺すんだよ」と反乱軍が自動小銃を乱射しながら叫んだ。当然ここまできると警備兵がやってくる。「反乱軍だ！！殺せ！總統を守れ」マカドニア軍の機銃掃射により部屋に入ってなかった兵士がもんどおり撃って3人倒れ死んだ。9人中3人が總統を殺し、6人が外部のマカドニア軍を倒すというポジションに入った。たちまち銃撃戦が開始された。火花が舞い、悲鳴、血しぶきが舞った。キングマカドニアは拳銃の携行弾を全て撃ちつくし、残った1人に殺された。それが分かれると残りの反乱軍が建物から逃げようとしたが30人に囲まれている。ダン　總統が使用した拳銃と同じ銃声がした第99總統候補のシーデスが反乱軍を3人拳銃で殺害し反乱は終了した。

「事件の元はサラモニーだ。サラモニーを殺害せよ！」シーデスが指示した。

やがてマカドニア第1軍がフォチャースト本拠地を包囲しサラモニーは自殺した。

新規總統はシーデス改めダン・マカドニアとなった。その前に国葬とかがあったがその日ダンには国民に対し、大々的な演説をした。

「われわれはこの度有能な總統を失いましたが、フォチャースト帝国が負けることはありません。そう、それは決してありません。神の味方をしたものは1年後には必ず、後悔しているでしょう。皆さん戦争は1年で終わらせます！ですから・・・」この演説は新聞で「總統は必ず神を滅ぼす」との見出しで報道され、同時に戦争開始の合図となった。

この日14月21日。

ダン・マカドニア総統（後書き）

さて第2部となりますが、皆様どうでしょう。まあアクセスを見る限り不沈戦艦武蔵ほどの人気は無いですが。それは計算通りです。その内増やします。いや増やして見せます。てな訳で次回もよろしくお願いします。

人間界炎上ス（前書き）

神が人間界に襲来。

人間界炎上ス

【アサリオ陸軍】

「こちら第3任務部隊。A3より襲撃を受けた。全滅状態で囲まれている」ボルフマン大尉の率いる800名の部隊は（国籍不明の部隊ⅡA3らしい）いまや2個分隊（24名）にまで減少していた。

ここはアサリオ国。そんな国無い？当たり前だ架空の話だ。

アサリオ国は少数の部隊しか持たないが1人1人の戦闘能力が非常に高い。「おかしいんだ。やつらM2機関銃を10発以上ぶち込んでも苦しむことは苦しむが死なねんだ。携帯用対戦車用ロケット砲を打ち込んでようやく殺せるんだ」ボルフマンが連絡していると、「隊長、敵が来ました」2等兵のバッチをつけた兵士が言った。「もはやここまでだ。各自突撃！」ここで死ぬことを悟った隊長以下24名は銃や手榴弾または爆薬を持って突っ込んでいった。

この国籍不明の国とは神である。そして突撃してきた兵士を見るなり、指揮官のオーデインが「おいでエンフラス」黒色で高貴な龍がやってきた。日本のように蛇のような龍でなくヨーロッパ方面のドラゴンに近い龍は兵士たちに口から蒼い閃光弾を吐き飛ばし兵士を蹴散らした。

【アサリオ空軍】

高度8000メートル 赤く空は燃えていた。そして皆さんが良く知っている型の戦闘機とSF系が好きな人の常識的な乗り物である円盤系の戦闘兵器が乱舞していた。マッハ同士の戦いでやや神が優勢で黒煙を吐きながらアサリオ国の戦闘機は落ちていった。

「これより首都の爆撃に向かう。皆続け！！」神の航空隊指揮官らしき人が言った。30機ほど、他の円盤機よりふた周り大きい円盤が地上に向かい降下していった。対地上用兵器 ダルスターというやる気の無い星を連想させる兵器が地上に投下されていた。

やる気を喪失したようにきらきら輝きながらその兵器は落ちていった。：マッハで。

赤い線となった弾はアサリオ国のビルをなぎ倒し、人間を木っ端微塵にしてしまった。車やビルの壊れた破片は凶器となり死亡者を増加させた。のちにこの兵器は人間からロケット・ダイブスターといわれるのだが今はそれどころではない。

アサリオ国は内陸国なので海は無い。わざわざ人間界に来て海上兵器を持ってくるのかが問われる。もちろん否。空軍で十分だ。

この攻撃は3日に渡りアサリオ軍を苦しめた。特に機械化が進んでなかった陸軍は壊滅的なダメージを被った。空軍は円盤を79機を撃墜。こちらの損失は120だからまだ良い。それより深刻だったのは町のほうだ。工場は破壊され、電気はストップし、町には遺体が転がっていた。

アサリオ国他、87ヶ国が（全部は112国）神の襲撃を受け経済的いや全てにおいて崩壊した。

神が人間国を攻撃したのはなぞだが、士気の向上のためだろうか？それはいまだ分からない。

ここで無事だった25国の内10国が国際総合防衛軍を編成した。
”復讐”を合言葉に：。

オーデインもびっくり（前書き）

オーディンもびっくり

人間界で復習の雲気が広がっているとき神はフォーチャースト軍が管理していたエディタ島に上陸した。オーディン率いる3万の兵士だ。「いけエン・フラス」オーディンの声により一斉に青白い光線が兵士を襲い骨の髄まで砕き割った。しかしここに担当されていたのはフォーチャースト第13師団と98番警備隊である。フォーチャースト軍の師団で3がつくのは新鋭中の新鋭である。警備隊はその名のとおり軽装備の本格的戦闘に加えられるようなものではない。

「右から神の戦車を発見」「よし9番地点の狙撃団に撃たせろ。神の戦車の後ろ装甲は神ならぬ紙装甲だからな」とある兵士の会話だ。そして言葉通りこの兵士に向かってきた戦車は急に黒煙を吐いて沈黙した。そこから神が出てくるなりそこを撃ち殺した。この時戦列で戦っていたうちの1人がガジスターだ。ガジスターは的確に指示が出せる戦略的にかなり優秀で、部下からの信頼も多かった。ガジスターの階級は少佐だ。前線に自ら出るものだからガジスター兵長などといわれるが、その分戦場の状況が分かる。入ってきた情報で駒を動かしていてもしょうがない。この様な考え方をしている。

またこの島の隣に小島があるが、そこはまさにジャングルだった。が一旦我が物にしてしまえば奪い返すのは難しく、なにしろ鉄鉱石などが取れるためほしがった。

神はそこに駐留しているフォーチャースト軍はいないのを知っていた。オーディンはそこに50人の兵士とエンフラスを連れて進出した。

まず現れたのが強敵だった。サベール・タマリンがいた。ある文献では村の兵士を1晩で血祭りにしたという…。しかしエンフラーは神の龍だ。攻撃をひらりとかわし、首に噛み付き動脈をグチャグチャにってしまった。

オーデインはこれを見て安心して「おい、警備は10人交代で半径1キロ圏内を回れ」といって自分はそこに寝転がった。

黒き空に月無し。こういう夜は何かが現れる。そして黒き生物は神の兵士から赤い血を出させていった。「うぎゃああ」ただならぬ事態にオーデインは目を覚ました。

体が叫んでる。逃げようと。あわてて翼を広げそのものの姿を見つめようとした瞬間。エンフラーがボロキレになった。「…嘘だろ」オーデインは驚愕した。エンフラーは神のなかのドラゴンの中で1番強い種類だ。それがいま一撃で。

翌日神は撤退した。オーデインはショックから立ち直れなかった。フォチャースト軍は訳があると思いアノ島に近づいた。高貴な龍の尾と血痕が残ってる。尾のみを残す龍は神の龍であり、しかもSランクであることを俺つまりガジスターは知っていた。

俺はこういった。「オーデインもびっくり」一同に笑いが起こった。

この名言は新聞にも大々的に取り上げられた。

神は初めて敗北的な思いをしたのである。

マカドニア軍大行進

フォチャマカドニアが量産され始めたのはコノころだ。またマカドニア軍の兵士がぞくぞくと航空機に乗っていく。

また同盟国ボンボン王国はフェバンダーに50名の部隊を派遣して工作を行っていた。

そして宇宙でも戦いが始まっていた。輸送中の兵士などの宇宙船を狙ったものだ。これまでにフォチャースト帝国は損失2隻にたいし、フェバンダー軍の輸送宇宙艦を130隻破壊、まだ護衛戦力の艦艇もちよくちよく損失を負っていた。

今、マカドニア軍は自国内より神やフェバンダーを駆逐し、敵側に侵攻を開始しようとしていた。侵攻兵力は 第2特殊侵攻ゲリラ連隊と第3マカドニア師団と他の部隊など計5万とフォチャマカドニア100機を投入し後方支援とし、第1、2、3、輸送警備宇宙艦隊を導入した。この宇宙警備隊だが、1つだけで輸送船50隻は破壊できる。そのような有力な艦隊を3つもつぎ込むのだ。

侵攻先はフェバンダーが占領している小惑星の1つだ。ここはなかなかの戦略ポイントとして重要な場所だ。

マカドニア軍はここに上陸した。惑星は驚くほどの要塞が構築されていた。一斉に機銃が咆哮した。マカドニア軍はフォチャマカドニアを戦闘に攻撃を開始した。マカドニア軍は20センチ砲や拔群の破壊力を持つ腕で敵を破壊、城壁を木っ端微塵にしていくな。実はここミサイル発射が可能な要塞だった。

第1城壁を破壊したマカドニア軍は第2城壁を開閉させる発電装置を破壊しに向かった。スナイパーに撃たれ、要塞砲や決死の守備隊がマカドニア軍に出血を強いる。

しかしマカドニア師団は2万人またこれに3000人が張り付いていた。さらに要塞後方ではマカドニア軍がフェバンダー軍を確実に撃滅していった。フェバンダー軍はここにわずか1万も置いていない。

やがて第2城壁が開きミサイル室にマカドニア軍がなだれのごとく入り込んだ。たちまち建物の中で銃撃戦が展開されるが、マカドニア軍がミサイル室を爆破してこれを終結させた。

なんと要塞を2日ばかりで陥落させ他の地区も10日で制圧させた。マカドニア軍は合計で3万ほどの損失を被ったが、フェバンダー軍をここから完全に駆逐できたのだ。

すぐさま建築部隊が上陸し軍事施設を構築し始めた。そして僅か1ヶ月半で4万の部隊が集結したマカドニア軍の戦略ポイントとなったコノ星にフェバンダーは2度妨害しようとしたが警備部隊にやられた。

ここを中継ポイントとすればフォチャースト王国まで距離が半分にまで縮んだ。またボンボン王国からの支援も受けやすい。

フェバンダー王国は早くも防衛に回らなくてはならなかった。

神の猛攻

ボンボン王国が占領した星に突如閃光が走った。電流が走るバチツといったような音がする。ボンボン王国占拠軍（第32師団、第9師団 第2機械化軍団）が混乱に陥った。

神のボンボン王国に対する大攻撃が始まった。宇宙船より40センチ砲が絶え間なく打ち込まれた。この40センチ砲は電流により電気機器を破壊させる能力も持っている。早くも機械化軍団のレーザー射撃システムは無力化した。

そこに神の突撃軍がやってきた。もっともその背中より生えた白き翼でとび低空で飛んでくるのだ。

ボンボン王国は近接戦闘はさほど弱くない。しかし空から飛んでくるとは思わなかった。電流波がボンボン国兵士に直撃し黒き死体と化した。

ボンボン第32師団は3割が戦闘力を喪失した。また第2機械化軍団は無力化されたところを狙い撃ちにされ、近代的な武器は消滅し、歩兵だけになっている。

精鋭第9師団が守っていた地区はなかなか落ちなかった。またそこに第32師団と第2機械化師団の残党軍が加わった。7割が神3割がボンボン王国だ。

ボンボン王国に情報が入ったのは輸送船が破壊され護衛艦がなんとか戻ってきてからだ。

ボンボン王国は援軍の派遣を決定したが、その前に神の宇宙戦闘

艦が妨害をしているのだ。まずこれを消さなくてわ。

しかしその心配は消えた。別の方向で解決された。神に残りの軍が全滅させられたのである。

またボンボン王国が宇宙に配備していた高速監視用宇宙艇が4隻消えたのだ。位置的に神に消されたのだろう。ボンボン王国はその地区の破棄を決定した。

また同盟国フォチャースト帝国では、主力戦闘宇宙艦艇2隻と護衛艦艇10隻が神の国籍艦艇と戦闘状態に入った。

「射撃用意。もっと引き付けろ。直接照準。誤差0，2」 「発射！！」 フォチャースト戦闘宇宙艦艇から9本の光線が延びた。それは神が率いている艦艇に直撃した。

しかし大したダメージが無いようだ。逆に護衛宇宙艦艇が2隻破壊 戦闘宇宙艦艇が1隻大破した。

圧倒的な戦闘力を見せた神に太刀打ちできるのか？

人間の復讐 1

神を撃滅する…それは、復讐を果たすため。

人間界はあの後どのような行動に移ったのだろうか？フォチャースト帝国が動かなかったら歴史は変わっていただろう。

フォチャースト軍が人間界に来航。当初は対宇宙用高射砲をうちかけていた人間達だが、交戦の意志がないのが伝わったらしく砲撃は止み、着陸が許可された。

フォチャースト第3軍セクター中将が用件を速やかに話した。

「我々は貴方達と同じ神に復讐を果たすものだ。我々に付くのか神の奴隷になるのかは勝手だが、賢明な皆さんはどちらにするのがお分かりでしょう」

2時間後、第99総統ダン・マカドニアに（人間界に新兵器の図面及び工作員を派遣しました。人間界は以上の事により我々と友好状態に入りました。）という情報が届いた。

新兵器とは？

そしてその頃、マカドニア軍がフェバンダー王国より奪った小惑星を覚えているだろうか。ミサイル基地や要塞があったところだ。

十分な補給を受けすこしづつフェバンダー王国に損害を与えていたときだった。

神が襲来。又フェバンダーが襲い掛かってきた。マカドニア軍新鋭兵器フォチャマカドニアが次々破壊されていた。衝撃には限りなく強く造られているが耐熱効果は非常に低い。

マカドニア軍は要塞跡に籠った。そして銃撃戦や白兵戦が始まった。

要塞に砲弾を叩き込んでフェバンダー皇国軍が突入した。マカドニア軍は拳銃やナイフで応戦したが、フェバンダー王国は白兵戦専

用ライフルを開発していた。

80センチと短くそして軽いのに丈夫に作られているこのライフルはマカドニア軍を寄せ付けなかった。

14日間各地で激戦が続いた。マカドニア軍最後の日に、マカドニア軍は爆薬をあらゆる場所に仕掛けた。最終的にマカドニア軍は玉砕したが、フェバンダー王国3個師団を壊滅的状况に追い込んだ。

しかし侵攻兵力は8個師団。神は1個連隊だ。

マカドニア軍はこの攻撃を受け反撃を開始することを決定した。ここに泥沼の戦いが始まる。

後にこの戦いは、トライセン惑星の戦いといわれこの戦争の5本指に入る。

マカドニア軍はフォチャースト軍も動員させた。

トライセン惑星の戦い1

さてトライセン惑星の際に動員したフォチャースト軍は10万人だ。

フォチャースト軍は5個集団いる。予備役はもともと5個集団。

この国の軍隊単位は、分隊（12人から15人）小隊（50人）中隊（200人）大隊（600人から850人）連隊（2000人から3500人）支隊（3000人で装備は軽装で機動力が高い）族団（4000人で治安が悪かったり特別な作戦などを開始するときが必要とされる）師団（15000人から20000人）軍（80000人）軍団（120000人）集団（200000人）。

最後が集団と言い、軍団より少なそうだがこの国ではそうなのだ。

そしてフォチャースト軍は全部で10個集団だ。

つ・ま・り200万人だ。マカドニア軍は3個集団だ。合計60万人。両軍で260万。

フォチャースト軍の陣容は1個軍（4個師団）特殊2個師団（4個連隊 2個支隊）で計10万人だ。

マカドニア軍は2個師団（4万人）を動員した。

宇宙輸送護衛船団は4個宇宙輸送警備隊を配置した。これで前回の3個宇宙警備隊とあわせて7個警備隊が集結することになる。さらに宇宙戦闘1個戦隊を護衛にまわした。（宇宙戦闘艦4隻 護衛艦8隻 その他12隻）

その頃トライセン惑星ではフェバンダー軍が陣地を作成していた。神は引き上げていたが、少なくとも2ヶ月以内は来ないと思っていたためフェバンダー軍は心配などしなかった。まあフェバンダー軍は6個師団いたのもあるのだろう。

1月3日

フォチャースト軍は500隻の艦艇でトライセンに接近した。宇宙戦闘艦と護衛艦がトライセンに射撃を加える。かかずトライセンにフォチャースト軍が上陸した。

フォチャースト軍は新鋭兵器を用意していた。制圧用に開発された銃で見た目は長いままだが、小口径の弾を発射し発射速度を上げて携行弾数を増やしている。

たちまち銃撃戦が開始された。もちろんフォチャースト軍全員にこの新鋭武器がいきわたってゐるわけでは無い。

艦砲射撃でフェバンダー軍の陣地を叩いて支隊で突撃し、師団規模で一気に攻めるといふ戦法がとられた。途中でフェバンダー軍の宇宙艦艇が来たが輸送船に申し訳ない程度の護衛艦艇しか付いてない。

フォチャースト軍警備隊によって軽く殲滅させられた。

神はもう1度出撃を決定。フェバンダー軍も増援を決意した。

未知なる泥沼の戦いが始まろうとしていた。

H e l p a n d a t t a c k (援助と攻撃) (前書き)

書いてる途中に内容が1瞬で消えるといういわく付の物語。んな訳ねーか。

Help and attack (援助と攻撃)

フェバンダー軍の兵力は2万6600人まで減少していた。ここ連日艦砲射撃やマカドニア空軍の対地上用爆撃機より爆弾が落とされる。その成分は1次的に酸化を進ませる成分を含むものだった。それは銃砲などに命中し、マカドニア軍が来ても重砲等が打てず、自動小銃を乱射することしか出来ず、その小銃も爆撃された地点に落としてしまったらたちどころに錆びてしまう。マカドニア軍は次の日にその地点の制圧に向かうが、残っているのは錆びた金属片などである。またゲリラ戦ができるほどの樹木などがこの惑星には無い。もはや絶望しかないのか。何しろマカドニア宇宙戦闘艦隊により外部からの補給線が確保されてないのだ。戦前まで我島だったのが気がつけば餓島になりかねない状況になりつつある。「くそつたれ」フェバンダー軍の兵士が冷たく体に掛かる雨が振ってくる空に向かい呟いた。

神はその頃新規作戦を立てていた。「閣下、地球侵攻部隊参謀ヨードラスからの書類が届きました」「これを待っていた。早く読みたまえ」と閣下と呼ばれる人物は言葉の内容とは裏腹にゆっくり言った。「まず地球侵攻作戦ですが：A案…全部を占領するのではなく、半分を占領し、抵抗が無ければそのまま爆撃を繰り返し、降伏させる。B案…しかし激しき抵抗があれば9割以上の占領を行い、徹底的に爆撃又は、火砲を打ち込み食料や戦闘継続必需品を消耗させ皆殺しか降伏させる方法です」「降伏か皆殺しだ？どういうことだ」閣下が聞いた「はい。その時の状況に変わる可能性があるの、降伏で終わればそうして、そうでなければ皆殺しとすることになっています：」「フン。まあ人間界など触っただけで壊れる兵器しかもってしまい」と呟いた後、「予定通り」ヘルプアンドアタック

作戦を発動せよ」「はいかしこまりました閣下。予定通り明日より開始します」そういうと入ってきたミラバー副大統領が退室した。

その頃人間界。「よし実験成功」「ようやくここまでこぎつけたか」「ああ、これさえあればやつらにも勝てるよ」数人の研究者が語り合っている。”やつら”とは神のことである。

人間がフォチャースト軍との強力で作成した兵器はW4F式戦車だ。

W4F式戦車

全長 7,7メートル 全幅3,45メートル 全高2,1メートル 重量40トン

武装 50口径50ミリ特別弾1基 12,7ミリ機銃単装4基
1500馬力エンジン マカドニア製特殊合金装甲 乗員3名
速力71キロ+

となっている。この特殊弾とは只単に炸裂して爆風や破片で敵を殺したりはしない、分子を分解してしまう弾だ。そのため量が多いか少ないかで弾のサイズは変わるが余り意味が無い。

そして口径が長ければ長いほど射程距離が伸びるのは同じだが、人間界のものとは比べ物にならない。対地・空レーダー射撃が可能だ。高速で飛びまわる神の近くに弾を発射すると信管が作動して爆発する仕掛けだ。そして直径20メートルなら跡形も無く消え去る。

その頃トライセン惑星でのフォチャースト軍は1割以上の被害を受けた師団規模以上の軍団はいなかった。つまり作戦行動に差し支える部隊はいないのだ。

そして朝方キャタピラーの騒音でフェバンダー軍は起こされた。これはマカドニア軍のW2戦車である。W2は人間界のW4F戦車より射程距離は短いものの住み心地と弾薬量は上だった。

まあ射程距離が短いといってもマカドニア軍は10キロ先の標的を射撃できるとか言う化け物みたいな射程を誇っている。ただ8キロ以上離れると命中率は下がる。

「フェバンダー部隊を発見した」「射撃開始」：射撃の音がしないのはマカドニア戦車の特徴だ。奇襲を考えたものかどうか知らないが、移動音がうるさいのでそこを考えたほうがいい。

弾が着弾した場所にいたフェバンダー軍は消え去った。跡形もなく…。

「装填完了。撃てええええ」突如、腸をえぐられるような音がした。発射音ではない。神が援軍をよこしたのだ。「くそ、護衛艦隊は健在なのにどこから入ってきたんだ」有利な状況からマカドニア軍は不利な状況に叩き落された。

もはやこの惑星の戦いはどうなるか分からない。

トライセン惑星の戦い2

白銀の翼を翻し神は侵攻して来た。「外の警備隊は何故神の襲撃が分からなかったんだ」「神だから紙のように薄くなってきたんだろ」と悪態をつくが、戦場に要求されるのは罵声ではなく、それを打ち消すほどの音をもつ火砲なのだ。

マカドニア軍のW2戦車が対空戦闘を開始する。神に一番有効だを与えられるのがこれだ。神は20人単位でマカドニア軍1個分隊を集中砲火して回っている。それにW2戦車が咆哮した。直後その神の集団は消えうせた。

一方でフェバンダー軍はマカドニア軍とフォチャースト軍の火力が10分の1に減ったのを見るなり攻勢に出た。しかし、マカドニア軍やフォチャースト軍は小口径で発射速度の速い銃による掃射を行う。

この銃は”HG-2型”という摩訶不思議な名前の銃だった。

ともかくフェバンダー軍は元々劣勢だったため、神によりマカドニア軍の火力が減っても、一気に情勢が変わることは無い。

マカドニア軍はフェバンダー軍の陣地に戦車をたくみに動かし翻弄していった。

一方の神も固まっているとまとめて消されるとまずいので分散して攻撃する必要が出た。マカドニア軍は戦車部隊を先頭にして退却線を開始した。ここで戦えばいたずらに死傷者を増やすだけだろうと考えたのだ。実際フェバンダー軍と戦っている隊はそれなりに善戦していたのだが隊長命令なので仕方ない。

この戦闘でマカドニア軍はW2戦車が31輜が破壊ないし行動不

能となった。人的被害は2000名を越した。フォチャースト軍はマカドニア軍の補佐としてきたため極端に攻撃していないが、172名が死亡し、400名ばかりが重傷を負った。

警備部隊は戦闘が終了した後には神の進入に気づいた。否、仲間の無線で話を聞いたがバカバカしくてまともにとりあわなかった。まさか警備隊も神が自分達の探索網を破ってくるとは思わなかったのだ。

神の侵入部隊は浸透重火器部隊だった。気づかれないように侵入し、目標を重火器でふっとぼすのだ。兵士の数はエースクラスの成績を持つ兵士が選ばれたため300名程度だ。フェバンダー軍は2万4000にまで消耗していた。さらに陣地が崩壊して防御力が低下した。

一方の神も54名がすでに戦闘不能となっていた。

その頃フォチャースト帝国では、地球偵察郡から入電が入った。

「何？神が侵攻して来た」

地球に神が侵攻して来た。兵力は3万名であった。21分前、同盟国ボンボン王国が出していた宇宙哨戒艦が3隻すべて消滅していた。

地球側の兵力はまだ非力と上層部は考えていた。ボンボン王国が3000名とフォチャースト軍やマカドニア軍が戦闘員7万である。数はあるが武器は新鋭兵器がいきわたっていない。地球防衛軍はw4f式戦車

を800輦生産していたが、神が襲来していたこともあり、機動力がいかせない。おまけに人数は50万程度である。結構入るように

見えるが一つの国に分散すると4465名以下である。神…人間の戦力割合は30…1であろうと考えられる。

人間界の雲行きは怪しくなっていた。

トライセン惑星占領

神が人間界に総攻撃を仕掛けたとき、フォチャースト・マカドニア両軍はトライセン惑星での戦いに終止符をうつべく、フェバンダー軍に総攻撃を仕掛けた。

マカドニアW2戦車が正面から軽装備隊が右翼担当、歩兵2万が左翼となっていた。

フェバンダー軍は神からの補給があったものの包囲されているのは変わらないのだ。実は神のほうはトライセン惑星にこれ以上の派遣はできないとして、事実上放棄していた。

ここで大部隊を送り込むと人間界の争いの動員数が減ってしまう。

○二四〇 フェバンダー軍は2万4000人のうち武装や精神的患者の数も増えたため事実上動かせる兵力は2万にも満たない。神は200名以上いるが疲弊しているようだ。

そこで軽装備部隊がフェバンダー軍の陣地内に侵入。その数36名。またその他の部隊も陣地の近くや入り口が見渡せるところにいた。軽装備といってもスナイパーなどはいるため結構な火力は持っている。おまけに口径は30ミリで無音銃口取り付け型装置をつけることにより発射音を軽減できる。

○三〇〇 「突撃」マカドニア侵攻部隊隊長グエツア・マカドニアが低い声でズシンと地響きを思わせる感じで言った。

例のW2戦車が戦線を突破していく。さらに左翼から歩兵部隊がなだれのごとく押し寄せてくる。フェバンダー軍はあわてて戦闘状態に入った。しかし重火器が不足している。そこにマカドニア戦車

が塹壕や谷底めがけて撃ちまくる。

そこで神が上空を旋回しだした。戦車部隊を引き付けるために必死に攻撃を続ける。陸上では左から歩兵が突き進む、それを行かせまえとフェバンダー軍が押し戻そうとする。左翼にフェバンダー軍は1万ほどの兵力を集中させていた。

「よしこのまま右翼の部隊も進んでマカドニア軍を逆包囲させよう」とフェバンダー軍少将が無線員に言った。「右翼部隊は敵の後ろに回りこみ包囲せよ」

○三五〇 「夜間照準機とは便利だ」右翼陣地にはスナイパーが多数潜んでいた。そしてフェバンダー軍が陣地から飛び出そうとしたとき引き金を引いた。一気に10人が撃った。地下陣地の入り口で数人がもんどりうって倒れこんだ。また内部でも破壊工作が行われた。地下陣地でいままで倉庫に隠れていた36名はもっていた小型小銃を前に向け倉庫に入ってきた兵士をなぎ倒し地上に向かいつつ攻撃を続けた。

「こつら右の地下陣地入り口敵スナイパーの攻撃により侵攻不可能」「こちら第5番倉庫敵工作員により炎上している。また第4番倉庫も燃えている」地下陣地とはいえ谷に繋がっている陣地だが、なんいせよ換気が難しい。そのままガスで倒れるも者が続出した。

○四〇〇 地下工作部隊は別入り口から4名が奇跡的に出てきた。が、そこにはフェバンダー軍がいた。「おまえらのせえか!!」フェバンダー軍上等兵のアキカミラ・オトヤは機銃を乱射し2人を殺した。そこで、弾が切れた「糞!弾がない!!」気づいたときには遅かった。ナイフがアキカミラ上等兵のはらをえぐった。その場にはこの上等兵以外のものが4人いた。

マカドニア兵士は1人の銃を蹴り飛ばし右にいた兵士の腹を思いっきり殴った。もう1人はナイフを投げ1人を殺し、もう1人と取

っ組み合いになった。銃を蹴飛ばされた兵士はそのまま首の骨を折られた。

取っ組み合いになっていた兵士も負け、そのまま腰にかけていた拳銃をとられ1発の弾により死んだ。

又その場でもがき苦しんでいたもう1人のフェバンダー軍も頭に拳銃弾を喰らい死亡した。

○四三〇 マカドニア戦車部隊はほぼ壊滅したが神は全滅した。左翼方面は優位だったが予備が後方から送られると谷の陣地に撤退した。

フェバンダー軍は既に3000名以上が死亡し、負傷者は7000名を追いそこらにのたうちまわる兵士がいた。マカドニア軍はそれをトラックではねながら進んだ。

○五〇〇 入り口という入り口にマカドニア軍は持っている爆薬などで埋め谷底に十分な攻撃をした。また宇宙警備隊からの攻撃も行われフェバンダー軍の陣地は崩壊していった。

○九〇〇 4時間にも及ぶ射撃でマカドニア宇宙警備隊は非常用の弾薬以外を全て打ち尽くしたため射撃を停止した。そこに1万人のフォチャースト軍が進んでいった。

○九四四 制圧成功

その次の日フォチャースト帝国にトライセン惑星完全占領の報告が入った。

その頃人間界では神が空中兵器で人間界に空襲を加えていた。果たして人間界の運命は。

トライセン惑星占領（後書き）

トライセンを惑星を捨ててまで人間界を占領する価値はあるのか？
フェバンダー軍は劣勢に追い込まれる。

フォチャースト軍も兵站の問題で一時期動けない。
果たしてこの戦争の行き先は？

人間界再び炎上す

神の低空飛行の破壊攻撃は人間のほうに劇的なダメージを与えていく。国際総合防衛軍は各所防衛場所を定めていた。A地区、B地区、C地区、D地区、E地区、F地区、G地区の7ヶ所である。他に1部独立防衛隊がいる。

神の攻撃が激しいのは現在F地区だ。特に平地が多いこの場所は特に防衛が難しい。しかし同時に機動性が大きくあがる。

そこにあのうるさいキャタピラーの音が聞こえてきた。

W4F式戦車だ。計24両もある。妨害式電流波という神の厄介な兵器でリーダーは少々狂っているようだが、その砲を上に向けると弾を放った。

W4F式戦車は砲がW2戦車より強力な造りとなっているため多様な弾が撃てる。まずは火炎特殊弾だ。

空に赤々とした炎が舞い上げられる。中心は瞬間的に摂氏1万度にも達す（らしい）。そのため神だろうがなんだろうが蒸発してしまう。そのとおりに空に打ち上げられた弾は神を焼き尽くした。そしてボトボトとまだ火がついている肉片がふってくる。この弾は中心から100メートル離れると温度は40度にまで下がる。

しかし危険なことに変わらないので撃ったのは最初だけだ。次からは真空拡散弾を使った。これは撃たれた弾がただ拡散するのでなく、拡散した場所の1部の酸素を奪い取りそれをそのまま爆発させるものだ。神は高度120メートルくらいにいるため地上の酸素はあまり減らなかった。が神は次々屍となっていた。

さらにここでボンボン王国の派兵されていた3000人中の800人が増援としてきた。

ボンボン王国兵士の対空兵器”4ガルーE”という謎の名前を持つ兵器で、高度2000メートルまでなら厚さ20センチの超硬度装甲さえ打ち抜くことができる。1度に6発が撃てるが、6発うつとエネルギー補充に70秒はいる。

神との1進1退が続いた。結局F地区は9割がたが占領された。また配置された部隊の10万人が9500人までに減少していた。しかし神は計算していた損害より2、3倍の被害を被っていた。作戦の見直しが必要とされた。

そのころマカドニア軍はこのままフェバンダー軍の本拠地惑星に言って本土決戦を行う準備や計画がされていたが、兵棋演習を何度やっても全滅にちかい損害をだして5割制圧と言ったもので、自分のあいだは動けそうに無い。

ボンボン王国は航空の編成はほぼ完璧に整っていた。また陸上部隊も日々訓練に励み、宇宙艦隊は最新の哨戒機能を導入してより強力となっている。

神と人間界の泥沼が始まっていたときマカドニア軍は動けない。ボンボン王国だけがフェバンダー撲滅の期待の星だった。

国際総合軍の反撃（前書き）

人間界の戦い。

国際総合軍の反撃

F地区の軍隊が消滅すると攻撃は主にB地区に集中しだした。B地区はF地区の北方にある。F地区と違い山々が連なる山脈地帯である。

国際軍をはじめとし、住民も不落の地区と信じ実に30パーセントの住民がここに集結している。w4f式戦車は機動性を生かせないため、砲塔だけとり要塞砲として取り付けた。

B地区の陣地は洞窟にコンクリート、特殊合金板、木材、土などありといわゆるものを使った強固な陣地だ。上方は500キロ爆弾の直撃にも耐え、側面は50口径40センチ砲が2万メートルの距離から直撃しても耐えられるようにしていた。どれほど国際軍がここに期待したか分かるだろう。

さらに100ミリ狙撃砲3連装が10基、40ミリ高速無音銃が100挺が1つの要塞に付けられていた。その要塞の数実に20ヶ所。

総司令部基地にいたっては1トン爆弾に耐え、毒ガスろ過装置、自動消化装置、自動敵射撃式装置等々他の要塞よりも立派なものになっていた。

これほどの軍備が整っているのは、この山脈地区の1部の国が永遠中立を宣言しながら強力な兵器を開発し独自の兵器を量産し、一応1年の兵役が義務付けられすぐに予備兵が召還できるようにしていたためだ。

その独自の兵器が100ミリ狙撃砲や40ミリ高速発射無音銃等である。

100ミリ狙撃砲とは普通の大砲のようなものに高性能光学機が

ついている。このサイズでは10キロ向こうの相手を1センチ程度の誤差で表示できるものだった。もっとも移動している相手を撃つので実用射撃距離はもっと短い。

40ミリ高速発射無音銃は名前どおりである。1秒間に5発の弾を発射しこれを25デシベルの音で放つのだ。ちなみに20デシベル・木の葉のふれあう音・置時計の秒針の音(前方1m) 30デシベル・郊外の深夜・ささやき声 である。異常だ・・・。

また自動敵射撃式装置は敵と判別したものを発見すると敵の数移動などを計算し自分の持てる武器を操り効率よく破壊するためのものだ。

過去の演習では時速60キロの速度で不定に動くの敵100輛(80馬力のエンジンを搭載した紙車)を1撃目の発射で70両以上を破壊した。2撃目で確実に誤差を修正し全てを破壊し尽くした。最も威力はすごかったが作成部は紙車がきれいに破壊されたので微妙な気分だったそうだ。

そのB地区に今回神は侵攻して来た。激しい空爆を続けたが軍事要塞どころがポケット陣地(洞窟を陣地に改造したもの)を破壊するのさえ難しかった。

「敵さんはぎょうさん撃ちよるな」「どれくらい撃つんじやろうか?」「たまに撃つ弾がなくなるまでじゃろ」陣地の中で兵士はそんなことを言っていた。

要塞とはいえやはりコンクリートに亀裂が入ったり、木材が粉となりパラパラ落ちてくる。果たして幾時間が過ぎたろう。

総司令部基地と連絡が付かなくなった要塞は無かったが、ポケット陣地が87個中2つと連絡が繋がらず、18人が死亡または重傷

を負っていたがこれくらいは幸運レベルだ。

表面が黒くなった山を眺め前線攻撃部隊は100名がレーザー銃を片手に山々を巡回した。この巡回で国際軍は攻撃はせず、3ヶ所の陣地が襲撃された。

「敵の状況は？」 「はい。敵は山で潜伏している模様ですが破壊された陣地後が多かったためすでに攻撃兵力は半減しているものと思われます」破壊された陣地が多々あったというのはダメー陣地だ。

「なるほどでは一気に制圧してしまおう。3000名を攻撃に当てる」 こうして神々は攻撃に乗り出した。

陸上攻撃部隊、空中攻撃部隊の2つに1500名ずつ分かれて一気に攻撃を開始した。

陸上攻撃部隊は5名に別れ30パーセントの攻撃を担当した。「おい神だ」「あれが神か！翼が生えてる」「あの山の頂上距離1キロまで引き付けろ」「了解」100ミリ狙撃砲の前で数人の兵士が小声で話していた。「よしよしそこだ！」「撃て」狙撃砲が恐ろしく押さえつけられたような小さい発射音で3つの弾が発射された。純酸素圧縮式だから煙が出ないのだ。

「あーあ空中はいいな」「そうだな」その5人の神が最後に見たのは空中で舞う仲間だった。数秒後土埃がもうもと立ち神の死骸が飛び散り燃えた木を赤黒く染めた。

「何だ？地上部隊のほうからだ」1部の神の空中部隊がその場に急行した。その時、他の陸上部隊が一斉に40ミリ機銃や100ミリ狙撃砲などで屍の山を築いた。

神の陸上部隊は空中にあわてて舞い上がった。しかし390名がいきなり行方不明になった。混乱した空中及び陸上軍がいた空中に黒々とした花が咲き始めた。「対空砲だ!!」「もう何が何なんだ」混乱がピークに達し神はバラバラに飛び始めた。

もはや戦闘飛行も神もあったものではない。100ミリ狙撃砲が神の移動パターンを読み込み正確な射撃を開始した。40ミリ機銃は大した音もださず只々神を撃つ。

神は翼に穴をあけられ揚力を失い転落死。破片や気圧で頭部裂傷、内臓破裂、手足切断による多量出血などで続々死亡した。

神があわてて上陸地点に戻ったとき1000名以上の損失を出していた。対して人間界は11名が死亡し42名が負傷したにすぎない。そして民間人の死亡者はゼロだった。またポケット陣地も多々残りサイドの攻撃にも耐えられるようになっていた。

神は攻勢に出て始めての敗北ということで人間界侵攻に疑問を抱きだした。

国際総合軍の反撃（後書き）

B地区で大敗した神。果たしてそうなる？

我ら新鋭ボンボンコマンド（前書き）

いやいや更新遅れに遅れました。だってテスト中だったんだもん。

言い訳だど？数学93点だ！！自慢？そうだよ、他に何を自慢しろと？1つくらい自慢したっていいじゃないか。

我ら新鋭ボンボンコマンド

神がB地区占領に手間取っているときだった。小型宇宙船が10隻地球に向かっていた。この小型船はゲリラ戦術を重視し始めたボンボン王国のステルス移動機―1型だ。

正式名称は他にあるのだがステルス移動機―1型で親しまれている。

タイプは3型aまであるのだが、1型が輸送可能人数6名で移住スペースが狭かったのを改善しようとした2型は武装と防御の防衛機能が軽視したものとなってしまい、2型a/b/cの3種類はどれも大型でコスト面であまり作れず、発動機の機動率も悪く内地でしか使用されていない。

3型は小型で防御力、攻撃力、なおかつ稼働率、移住スペース全てを盛り込んだ結果乗組員がわずか3名で宇宙超高性能光学羅針盤や予備ソナーなどの補助機能がなくなっている。

3型aはしょうがなく中型となり1型が今のところの優秀機とされたい。

1型

全長20メートル 幅3, 6メートル 高さ2, 4メートル 発動機「スー11」最大出力10万スクワード（馬力的なものらしい）

武装 レーダー統一性40ミリ宇宙機関砲 10式75ミリ宇宙砲

防御 最大防御部…絶縁型80ミリフラージュ装甲（電波や電磁波などの攻撃を受けず、衝撃を受けると逆に吸収して強くなる性質あり）通常部…絶縁型32ミリフラージュ装甲

宇宙式航海器具…多数 安全性はきわめて高い

移住スペース…1人当たり1坪

宇宙航海用燃料…特殊惑星光力発電（基本的に無限）補助1週間分
食料状況…1万光年分は大丈夫（巡速で2週間）

他にもあるが主なものは以上である。

ボンボン王国のボンボンコマンドは近接戦闘主義から初めて近代的な遠距離戦闘も可能にした特殊部隊中のエリートだ。将来的にはほとんどをこれにするつもりらしいが、経費などの問題で全体的には4%しか出来ていない。

第1師団、第2師団の2個師団が現在存在する部隊だ。3500名の連隊を4つ集め1個師団としている。1万4000名の部隊の内、近接戦闘と遠距離、中距離戦闘の成績がトップクラスの250名がボンボンコマンドとして選抜されるのだ。

♪ 敵がいくら優秀でも わがコマンドには無力なり

無力の勢にあらずとも 味方になう敵は無し

わがコマンドの奇襲に 敵は兵を進めれず…

このようにボンボンコマンド部隊を称える歌さえできた。

それはともかくボンボンコマンドを乗せたステルス移動機は電波妨害ジャミングをだして地球に上陸した。神の宇宙船舶はこれに気づかず電波の乱れは気候の問題などといういい加減なもので終わらせてしまった。どうしてこうやる気が無いのだろうか？この戦いの最大のミステリーだ。

さてそして到着したボンボンコマンド60名はここがどこかと分かっていった。人間界最大の防衛要塞リーグ・ウェーズ・タウンだ。

最新の暗号機で連絡をとり人間界の攻撃を受けずここまでこれた。

国際総合防衛軍最高指揮官　ダルベル・スターリ總統と国際的行
為をした後、ボンボンコマンドはA地区に向かった。

神はB地区に重力兵器を使用する又はこのまま放棄の2つの選択
を迫られた。重力兵器はおもさで敵陣を潰すのだが、その設備が整
っている宇宙戦闘艦は1隻しかなくいま神本土で整備中だ。おまけ
に必ず潰せるとは限らない。

放棄は魅力的だがここは譲れない気もする。

でた結論は放棄して他の地区を攻めるべきとの声が上がった。

果たして神の次の攻略場所は？ボンボンコマンドは効果を発揮で
きるのか？

我ら新鋭ボンボンコマンド（後書き）

神はb地区攻略の一時的放棄を決定。

果たしてボンボンコマンドはどう動くのか？

フェバンダーもまた黙ってはいなかった。

フェバンダー動く

神は対地上用毒ガス攻撃機を導入した。D地区攻略に力を注いだ。D地区は川や山、平地などと一般的な内陸国の集合場所(?)とでもいうべきところだ。

神は毒ガス【レッドバルーン】の使用を決定。対地上用攻撃機を宇宙対惑星空軍用空母より発進させた。

D地区は一部の場所に集結しておらずバラバラに拡散していた。しかし武器は貧弱で国際軍はここに戦略的な軍隊を置いていなかった。

D地区は最も防衛が難しくかといって陣地構築も土などが火山石などが混じっていてほれたものではない。

その場所に国際防衛軍は3万4000名しかおらず100年前の戦争で使用された残り物兵器をできるだけつぎ込んでいた。

戦車200輦 小型火炮3000門 自動小銃多数などといったもので航空兵器などと呼ばれるものは一切ない。まあ他の地区もA地区以外まともな空軍部隊は持っていない。

その上空に神の攻撃機がカラスの大群のごとく押し寄せてきた。黒い何かを落とした。

「爆弾かあ?」「どうもそうらしい」たこ壺陣地の兵士は頭を抑えて体をちぢ込ませながら見ていた。「割れたぞ!拡散弾か」

爆弾らしきものは次々割れて中から煙のようなものを出した。空気より重いのか下にずんずやってくる。100機の攻撃機が10発の毒ガス弾をD地区の1割を集中攻撃した。

「暑い苦しいよ」「うわあああ から・・・だ 手が・・・」兵士

は赤くなりスイカのように膨らみ死んでいった。レッドバルーンとは赤いバルーンのようになるためつけられた名前で、あまりにもひどいため使用が禁止されていたが上層部に黙秘で使われていた。

対毒ガス用浄化装置を地上に投下して毒マスクをつけて神が上陸した時、赤い死体が穴の中に転がっていた。2000名が死亡した。神の死者は0である。

そのころF地区で残党軍の掃討作戦に神が全力を挙げていた。しかしそこにボンボンコマンドが邪魔に入った。

音沙汰もなく神を暗殺し補給車を破壊した。決して深追いはせず作戦実行とともに逃げるため神もこれには舌を巻いた。

人間界侵略はあまり進まない。

フェバンダーがこれを分かったのは2日前だ。

フェバンダー軍は対野戦用【抜刀隊】を編成した。拳銃と刀しか持たない部隊だが非常に安上がりでこういう訓練を全国の学校などの教育機関で昔からやっているのですぐに数がそろえられた。

3000名の抜刀隊はボンボン王国の領土の小型惑星に上陸し1日で占領した。

元々200名しか防衛軍を置いていなかったのが原因だが近接戦闘に特化していた自分たちに近接戦闘で挑んでくることはないだろうという慢心があったのも原因である。

フォチャースト軍は再編成をすばやく行った。

そのためまた作戦が可能となった。

戦いの行先はいまだ分からない。

それぞれの戦い

D地区の防衛軍は半分以上がすでに蹂躪されまともな抵抗すらできぬまま兵力をいたずらに消耗させている。

毒ガス【レッドバルーン】を5000個以上投下し、攻撃機を200機以上を導入した。国際防衛軍は1万4000名の兵力を残していたが、戦車はほとんど破壊され火砲も弾は残り少ない。まあ数もつとあったところでこの能力なら神に善戦することは無いだろう。

7、7ミリ自動小銃を3点バーストで撃ちながら12人〜50人で横向き並び神がいる陣地に行進していったが、飛行し上からレザ―等で屍に変えてしまった。

D地区は1万の兵力で総攻撃を開始した。しかし圧倒的な火力を誇る神にはまったくの無力であった。

「死ねええええ」「神がなんじゃあ!!地球から出て行け!!」罵声を発しながら岩や木々から湧くように出てきて神に機銃を只々撃ち、撃ち、撃ちまくりそして倒れていった。戦車砲や火砲が遠くから援護射撃をしてくる。音が鳴り響き地面がえぐれ、土埃が舞い上がり少なからず神に損害を出させたが、戦況を変えるにはいたらず突撃した兵士は誰も撤退せず唯、前進して行った。

3時間がたちあたりには静けさが戻り1万人の兵士は戻ってこなかった。

ボンボンコマンドがこの日A地区に上陸してから半月ほどがたち全滅した。彼らの奇襲戦法はとても完璧なる物だった。

しかし、ついに隠れ拠点を発見され1人あたりに50名の神を向けた。神の最新鋭レーザー誘導型105ミリ砲に拠点からいぶりだされたボンボンコマンドは神からのレーザー射撃を幾十発受けボロボロとなった。

ボンボンコマンドがこれまでに残してきた成績は神196名暗殺車両100両以上 弾薬0・8パーセント爆破 兵器3パーセント破壊と決して少なくは無い。

しかし約15日で全滅したという事実で戦後「まったく無駄な死者を出したものだ」と評するものもいた。

全滅というのは数割の損失を受けたりするだけで全滅または壊滅規模といわれる。ボンボンコマンドは実は数人ばかりA地区に撤退している。

そのころボンボン王国を占領したフェバンダー拔刀部隊だが惑星の周りに完全機械化宇宙艦隊を配備し、占領地区統治部隊は拔刀隊から普通の師団になっていた。

では拔刀隊はどこへ行ったのか？

フェバンダー王国はこの時期、【特別軍事拡大措置法】というものを発布して国家予算の7割も軍隊に当てられたのだ。住民はそれでも厭戦気分にはならなかった。

元々この国食べていける分だけの食料は各家庭で自給自足ができる。というより、法律で義務付けられている。

同時に公共機関の1部停止などですんだ。まあこの国もとから公共という概念が無く個人個人の主義を重視していた。

フェバンダーが本格的な軍拡に乗り出していたとき、フオチャー

スト帝国は何をしていたのか？

フォチャースト軍は戦時には国家予算を5割使用としていた。また市町村単位で車や猟銃、武器を集めるように指示され、それを集めて

装甲車なり狙撃銃なりに変えていた。

また漁の仕事をしていたり運転免許を持ったものから義勇機械化部隊を編成までした。この義勇機械化部隊は神が人間界に侵攻し始めた時期から集められた。

現在は約7万名と300両の装甲車で一部の内地防衛軍としてされている。

されもう一度疑問を聞く。抜刀隊はどこへ行ったのか？

拔刀戦争

剣で戦う時代はもう過ぎたのだろうか？そうではないらしい。

エディタ島を覚えているだろうか？オーデインのドラゴンエンフラスが死ぬこととなった戦いの島だ。ガジスターが指揮している横のジャングル島にフェバンダー軍の拔刀隊と第49連隊が侵攻していた。

ガジスターはこれを確認した。

エディタ島の第13師団の砲撃が始まった。しかしジャングルが生い茂りあまり効果がなかった。逆に木々の間から向こうが射撃をしてこちらの損失のほうが多くなっていったため作戦を中止した。ジャングル用に特化された対ゲリラ用の700人がいるが、むしろはその4倍以上いるらしいから無駄だろう。おまけに一応上陸用の船に乗る必要性があり途中で撃沈されたら終わりだ。

ガジスターは本国に航空支援を要請した。空輸作戦である。

2日後 敵部隊が陣地作りに専念しているときフォチャースト軍のgk-2（速度480キロ 定員20人 30ミリ機関砲×8 【後方2 前方2 左右2丁ずつ】）が300機も上空に飛来した。

拔刀隊3000名と対ゲリラ戦闘部隊3000名が上空より降下してきた。広さ700平行キロメートルある島に機関砲が打ち込まれ、いっせいに対ゲリラ戦闘部隊が小型爆弾を投げ捨てた。

そして対ゲリラ用部隊は拳銃を取り出した。大木が邪魔で自動小銃やライフルがまともにつかえないのだ。

抜刀隊は99式短剣を使用している。とにかく視界が悪く長い武器は使いにくく強力な火砲でも木々に阻まれてしまう。

フェバンダー軍は2900名の抜刀隊と2000名の連隊で上陸していたが、抜刀隊200名が死亡し、連隊も100名ほど死傷していた。

フェバンダー軍は敵が降下していた情報を入手していた。

1日後血戦が行われた。フェバンダー軍の歩哨と敵搜索隊の部隊が衝突し仲間がかけつけ乱戦となった。金属の擦れる音がし赤い血が流れた。

そのころ人間界では神の無差別爆撃が全地区に行われていた。ただA地区は唯一防空戦闘で勝利をあげていた。

乱戦が続く中神はあるひとつの決定を下した。

神の大攻勢作戦（前書き）

静まり返った会議室でダン・マカドニアは次のように言った。「
その言葉が聞きたかった」

神の大攻勢作戦

神は次第に戦闘意欲を失っていく兵士たちを見て一気に侵攻を図るべく各地区一点集中攻撃から一転して、総攻撃に作戦を変更した。

国際総合防衛軍最高指揮官　ダルベル・スターリ総統は、地下工場でW4F戦車をA地区でひそかに増やしていた。

神はC地区、E地区、そして保留状態だったB地区に攻撃を図ることを決定した。地球侵攻部隊参謀ヨーダースは成功確立は90パーセントという数値をはじき出した。

国際防衛軍の残り部隊は多くて38万でA地区に10万人以上を置いていたため正式部隊はこの3つの地区で28万だろう。1人100殺と計算すれば必要な兵士人数は2800名だ。ただ兵士全員をすり減らしてもしょうがないため3倍近い8000名もの動員を決定した。さらに隊長オーディンは自ら戦闘でC地区方面の攻略をするといいい張った。そのためC地区方面の神は隊長を殺すわけにはいきまいと戦意をあげていた。

そのころマカドニア抜刀隊とフェバンダーの抜刀隊の戦闘が行われている中、マカドニア軍の敵侵攻が行きとどまっているのを見るとフォチャースト軍は8万、宇宙戦闘艦3隻、宇宙警備艦10隻を動員して神本土への攻撃を計画し、ダン・マカドニアに進呈した。

「万が一失敗した場合はわが国はマカドニア軍しか頼るほか無いではないか、義勇兵は実地的な戦力としては多様な疑問を感じる」ダン・マカドニアはずしりと会議室に響く声で言った。「ですから今やるのです」とサラモニーの後を継いだ新フォチャースト軍最高指揮官のダニエルス・マンドは言った。

「何？」今”だからだと？」急に顔を紅潮させた顔を見てもダニエルズは反逆者サラモニーと同じく平気な顔をして「はい。今神は人

間界で苦戦しています。そこでこの兵力をぶつければ作戦を停止させボンボン王国の兵力編成を行い、フェバンダーを屈服させれば神とてまともな戦闘は難しくなるでしょう」確かに神はフェバンダーがいなかったらここまで大規模な作戦を展開しなかっただろう…。短期決戦を行わなくてはわが軍がギリ貧になる可能性があるとの需要大臣からの声もある。

戦争は1年で終結させます。その声が自分の脳裏によみがえった。総統はゆつくりと助手に「今日は何月何日だ」と疑問をぶつけると「今日は6月1日でございます」との返答が返ってきた。つまり約束の期間まで後、9ヶ月も無いのだ。フェバンダー用の兵力編成を行うために神本土を攻撃…。

総統は「その兵士たちは帰還が出来ないのか」と率直な質問を述べた。「もとより兵士たちは帰還など許さず玉のごとく砕け散る覚悟で戦闘に臨んでいると思われます」兵士達の死傷など気にも留めないのかと思ったが、静まり返った会議室でダン・マカドニアは次のように言った。「その言葉が聞きたかった」

同日、神は本土より新たに3000名の兵士を送ってもらい人間界大攻勢の準備を着々と開始していた。

そしてその火蓋が切られる前日無差別空襲はパタリとやんだ。
6, 1嵐の前の静けさ”と後世の人はこう語った。

神の大攻勢作戦（後書き）

大攻勢を人間界に開始する神を国際軍は勝ちを得れるか？神本土に直接攻撃はできるのか？

次回「死守命令」

死守命令

土埃がもうとうと立ち込めるなか青白い閃光・赤い閃光と殺戮の音がただ鳴り響いていた。その中に国際防衛軍は絶望的な戦いを続けていた。

ここはC地区だ。まあ地形は山や川たまに平地と不順だ。神に3日前から攻撃され既に残り4万で包囲されている。

炸裂音が聞こえれば地面に穴が開きそこにいたものや物資は弾き飛ばされる。両軍の兵器もブリキ細工のおもちゃのごとく壊されたものがあちらこちらに放棄されている。かつて生きていたのかすら疑うような死骸がこびり付いている物もある。

西部地区と中央方面に分割されている。西部方面に1万9000と中央に2万1000だ。最もこれが正確な数値なのかすら分らない。

C地区はオーデイン率いる精鋭部隊でまたたくまに防衛網を破壊し、隙を与えず侵攻しついに昨日包囲したのであった。

その戦場の中心では国際防衛軍の最終砦があった。古城を最大限まで強化しているもので15センチ榴弾砲があつたても、かすり傷程度しかおわないだろう。最も地下に司令官などがある。

「長官。すでにわが陣地は包囲されています。明日早朝にでも敵の包囲網を突破し西部方面に転進しましょう」戦況を伝えるきた男に対しC地区防衛司令部ダグラス・ミードドットは「いやここが落ちれば我らは死ぬと思え。決して撤退は許さぬ。転進などという逃げ言葉を使うな」といい死守命令をだし決して撤退をしない覚悟だった。

報告に来た男は前線の指揮官に伝えようと外に出ると3メートル

横で何かが炸裂し土砂に埋もれて、30分後ようやく出れた。もはや逃げ場所など無いのだと実感しつつ蹂躪されていく陣地の中で呆然と立ち尽くしていた。

E地区は産業文化が盛んな国が集まっていたためw4f戦車の保持数も結構ある。神の構成を幾度かはじき返しているが、消耗が激しく後何度耐えられるか分かったものではない。そればかりか神は宇宙戦闘艦より射撃を行い、陣地を破壊し戦車の機動を妨害しているのである。これでは勝ち目が無い。しかし国際防衛軍は勇敢だった。そしてキャチフレーズは悲しいものだった。「当たって砕けろ」。

B地区の神は入念に爆撃を行い、慎重に行動を行い多少の被害は出ているものの最新式の光科学技術により陣地を発見し手際よく破壊して行った。

しかし相変わらずの無音射撃や馬鹿でかい狙撃に悩まされているのだった。民間人は1パーセントしか死傷しておらず、その民間人というのは義勇部隊で偵察などを行うため外に出ていたものだった。

一方の神本国は「どうだヨーダスよ。作戦はうまく行っているか？」副大統領ミーダスは人間界侵攻のことを聞いた。「はいB地区方面はてこずっています但し他のところは2パーセントも遅れていません」

それを聞くとミーダスは唇の両端を上にと「そうかあと何日かかる」「フォチャースト帝国やボンボン王国が動かなければ後、2ヶ月で終わると思われます」「3週間短縮させたまえ」とミーダスが無理な話と分かっていたが言った。「分かりました。そのように前線指揮官に言いましょ」と微笑しつつヨーダスは退室した。

ヨードスの退室1分後、副大統領は慌しく入ってきた男の話を聞き椅子から転げ落ちそうになった。「フォチャースト帝国のやつらが資源地帯を破壊しているだど!! バカモノ」とあつてはならぬいことを聞かされたミードスは怒鳴りつけたが、それでどうにかなるわけではない。

「こちら第23番地。フォチャースト軍の攻撃を受けている。対処できない。大至急援軍を要請する」「無理だあちることからその情報が入ってきて予備の部隊がまわせぬ」「早くしないと…」現場の神からの報告は大爆発の音によっていったん途絶えた。「どうした」「石油施設が爆破された。繰り返し石油施設が爆破された」このような悲惨な報告は神の領土すべてにおいて聞かれた。

混乱が収まるのはかなりの時間を要するようである。

死守命令（後書き）

どうも。相変わらずのスロー更新です。むしろひどくなってる気が…。

まあ打ち切りしないでやってみようかと思いますが、動画作成と
かもして時間が割けませんな。

フォチャースト神本土にて、花の舞

神が敵の一方的な攻撃を防ぎきり、一時的に撤退させたのは3時間前の事である。無人空軍部隊により執拗なほどの大爆撃が加えられ、砲弾が絶え間なく地面や兵器、兵士をなぎ倒していく。

フォチャースト軍が退路を確保し鮮烈な撤退戦を開始した。重戦車が砲弾を叩き込みながらキャタピラ音を轢きたてて下がる。携帯型4インチ砲を撃ちながらじわじわと後方へ兵士達は下がっていった。

そして今ここに残っているのは神本土の建築技術を最大限に積み込んだ石油施設だったであつたのかと、疑われてもおかしくない残骸や鉄屑、肉片、無数の破片、そして大小の穴の中にそれがあつた。

「ひどいな・・・」この地区担当していたフロニア・ダンツツ・ペロスラーは一人こう呟きながら、幾人の仲間と無意味と分かりながらも有刺鉄線を張り巡らしていた。

「んーやれやれ：新鋭軍団を人間界に送り込んだ後に来るとはなにとも分が悪い」と本土防衛係最高司令官スローニング・ダズエル大將は窓から見えるビル施設を見ながらそういった。

「殲滅にはそれなりの時間がかかりますよ」とコンピュータと兵棋盤の両方を使うという変わったことをしているこの男は、スターニング・ベルゲイザ大佐。

「後、何日かかるのかね。できるだけ具体的に」とペロスラーは体をベルゲイザに向け聞いた。

そして顔をゆっくり上げながらベルゲイザは「詳しきことは何ひ

とつ分かりません。ただ1月以内に本土からたたき出せますよ」「
そうか・・・まずは市民が厭戦気分にならないようにするのが最大の課題だ。向こうだって1年しか持たぬだろう」そういうとベロスターは部屋から出て行った。

第2時攻撃が始まったのはさらにそれから10時間後だった。

ひっきりなしに砲撃の音が聞こえた。神の電気質を帯びた砲弾が電子機器に当たると使い物にならないはずだったが最小限ながらも絶縁加工をしているフォチャースト軍の電子危機は使用不能になることは無かった。フォチャースト軍は鉄鋼弾及び特殊弾を使用していたが、これもまた効果はまばらだった。

その後も第3次、第4次と波のごとく引いては押すという攻撃をした。ちょうど半月たっただろうかフォチャースト軍は戦場で散ったのであった。

8万の兵士は5000名を除きすべて全滅したのだった。その5000の兵力の内1000名以外は捕虜となっていた。その1000名は宇宙戦闘艦などに護衛されながら宇宙戦争を繰り広げながら元いた国に戻った。

その宇宙戦争は以下のような戦果にて終了した。（ ）内は参加数。

フォチャースト軍

宇宙戦闘艦 2隻大破 1隻損傷（四隻）

小型戦闘艦 1隻損傷（二十隻）

警備宇宙艦 4隻大破（八隻）

650名死傷

神

地上対宇宙砲 200門(900門)

宇宙対宇宙砲 100門(200門)

警備宇宙艦 10隻撃破(30隻)

宇宙戦闘艦 1隻撃破(七隻)

そのころ人間界ではどのような影響が及んでいたのか？

フォチャースト神本土にて、花の舞（後書き）

この戦いは人間界に対しての戦局は好転となっていたのか。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8081v/>

フォチャーストVS神

2011年12月7日23時47分発行